

両側下顎頭にみられた縦骨折の1例

内田啓一, 長内 剛, 塩島 勝

松本歯科大学 歯科放射線学講座 (塩島 勝教授)

下顎関節突起部骨折は顎顔面領域の骨折で比較的多いものであるが、下顎頭縦骨折の報告例は比較的少ない。

今回、われわれは両側下顎頭にみられた縦骨折の1例を経験したので、その写真を供覧する。

患者は45歳の女性、1999年5月7日、自転車走行中に前方へ転倒し、オトガイ部を強打したため某医院を受診し、オトガイ部および下口唇部の裂傷の処置を受けた。その際のエックス線検査において下顎骨骨折が疑われたため、同年5月8日、精査のため本学を受診した。本学受診時の断層方式パノラマX線写真において、下顎正中部から右側下顎第二小臼歯部遠心側へ斜走する骨折線と、小骨片が内方へ偏位する両側下顎関節突起部骨折を認めた(写真:1)。関節突起部の骨偏位の状態を観察するためにエックス線CT検査を行った。両側下顎頭部においてはほぼ中央を前後的に縦走する骨折線が認められ、同部の骨片は外側翼突筋により前下内方へ偏位しているのが認められた(写真:2)。

下顎関節突起部の骨折は比較的頻度の高い骨折であるが、このような縦骨折の場合は通常のエックス線検査では、骨片の偏位の状態や周囲との解剖学的な構造物と関係を詳細に観察することは困難なことが多い。今回の症例では施行しなかったが、とくにエックス線CT検査による前額断層検査は、骨片の移動がより正確に把握することができるので行うべきである。さらに、縦骨折症例では空間的にその位置的關係を観察するため、三次元立体CT画像も非常に観察に役立つものである。必要に応じて診断に応用すべきだと思われる。

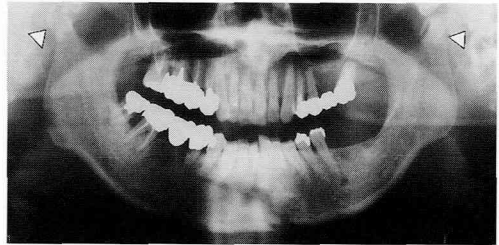


写真:1
断層方式パノラマX線写真。下顎において斜走する骨折線および両側下顎関節突起部骨折を認める(△印)。

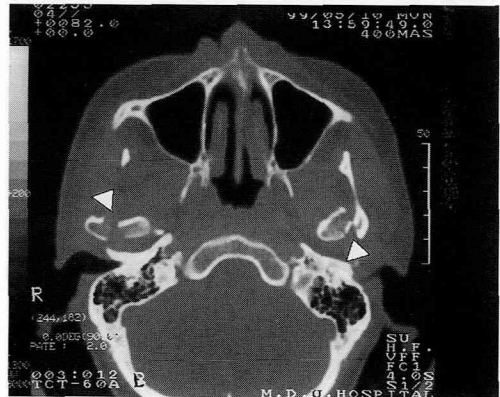


写真:2
エックス線CT画像。両側下顎頭部に縦骨折を認め、骨片が前下内方へ偏位している(△印)。